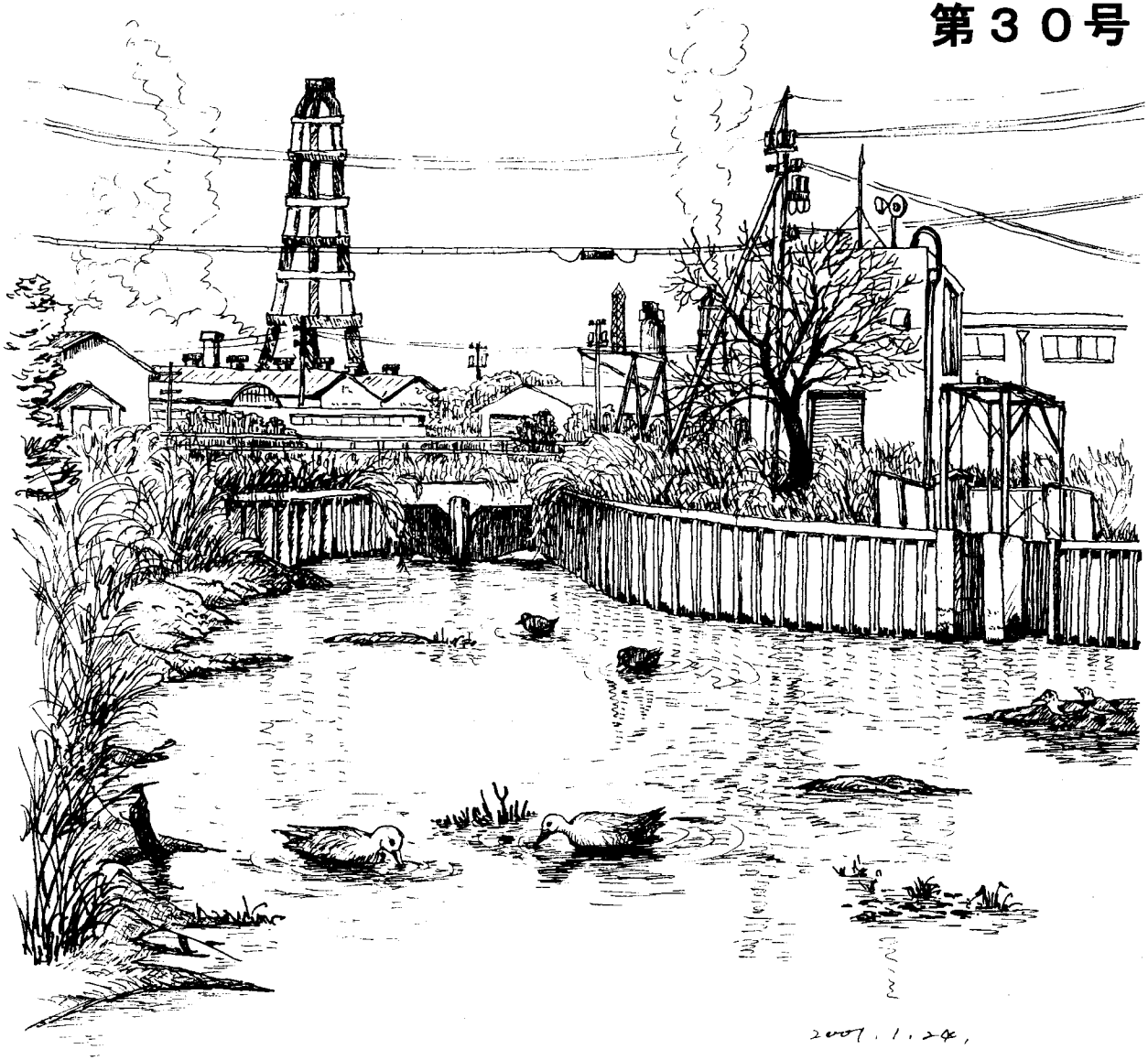


川

第30号



2001年 2月
(財)日本野鳥の会 三重県支部

● 会員のあなたへ ●

木村 京子 (四日市市)

最近3年くらい、家の近くの里山で秋から初夏にかけての野鳥たちの種類や数の変動を私なりに見てきました。1年ごとに多かたり少なかりする種類や、一時期のみ姿を見せるもの、冬の深まりとともに数が増えていくものなどがあり、里山の多様な環境が多様な野鳥たちの生活を支えている様子や、いろいろな発見が楽しみでした。野鳥について知る、野鳥を通して自然を理解するという事は、私達野鳥の会会員の原点だと思います。

現在の環境問題や自然破壊の現状は、かつてより一部改善されたものもありますが、深刻なものが多く前途が危ぶまれています。では、私たちにいったい何ができるのでしょうか。

三重県支部は「野鳥の正しい知識を普及し、自然と共存する考え方を広める」ことを目的として活動しています。野鳥を通して自然を観、その自然を理解するよう努めてきた私たちは、「自然と共存する考え方」を提案できるはずですし、そうしなければならないのではないのでしょうか。

最近是一般の県民や市民に対して、行政側がどうしたらよいか、これでよいか、と意見を求めることが増えています。迷わず、自然と共存する考え方に基づいて意見を述べましょう。自分の責任のもてる範囲で、自分の意見を述べればいいのです。

これまで三重県支部は職員をやとうお金がなくて、支部の仕事を支部の役員が分担して行ってきました。これを支えているのは、野鳥や自然が好き、何とか野鳥のすめる自然環境を守りたいという気持ちです。そして、これらは一人一人の自主的な行動で成り立っています。自分は鳥が見ただけ楽しみたいだけ、責任のあることやめんどろなことは誰かにやってもらいたいというのは、三重県支部は存在できませんし、自然も残せません。

あなた自身が責任をもってできる範囲でいいのです。あなた自身が行動しましょう。市民活動を支えるのは、「やる気」と「自主的な行動」です。誰かにやってもらおうと思っているうちは、何も進展しません。

三重県支部を支えていくのは、あなた自身のやる気と自主的な行動なのです。



今月の表紙 絵：鹿島 素子

目	次
●巻頭エッセイ・表紙の言葉	2
●特集：探鳥会を考える	
探鳥会 言いたい放談	3
テーマ投稿：探鳥会と私	6
●報告とお知らせのページ	
理事会つうしん	9
お知らせ / 企画部・保護部・	10
編集部・事務局日誌	11
特別寄稿：「やさしい気持ち」を考える	12
●会員のページ	13
●探鳥会報告	16
●探鳥会報告・奥付	18

☆ ☆ ☆ ☆ ☆
今月の表紙 ☆ ☆ ☆ ☆ ☆
 磯津港・水門付近にて
 工場や道路に追い込まれるようにして残ったわずかな水辺や草地を、スケッチにして残しておこうと画いていると、水門のある池にはカモやカモメや小鳥達が次々と訪れていた。この小さな池は、ヘドロが大半のようので、所々でプクプクと泡が出ていたりする。こんな泥水を、平気でパクパクやっている彼等のお腹は、大丈夫なのかな。
 鹿島 素子 (四日市市)

なぜ探鳥会？.....

司会 アンケートの結果なんですけど、入会のきっかけになった、という人が50人中25人です。

みなさんは？（全員が「探鳥会」と答える。）

(=_) だから、やっぱり外に対してのPR効果が大きいのということ。それと、初心者に対する指導かな。

(^0^) アンケートの答えでも、「教えてもらえる」という意見が多いものね。

(=_) 私は仲間がいなかったから探鳥会しかなかった。

司会 野鳥を見る仲間との交流が楽しい、という回答も多かったです。

(^0^) そういう役割も大きいわね。

(+_+) でもインターネットを通じて会を知り入会した、というように探鳥会がきっかけでない会員も多くなったよね。

(^0^) 前は数は力なり、でとにかく探鳥会で会員を増やそうということを目指していたけど、今はそうでもないかも。勧誘パンフもそんなに配らなくなったな。

(=_) 新しい人が来ないもの、新聞にもあまりお知らせが出てないようだし。

司会 アンケートにもマスコミへのPRが足りない、という意見があります。

(^0^) 探鳥会の目的としては、やはり一般の人へ会の活動を知らせていく、ということも大きいんだから、それでは困るわな。

司会 以上、探鳥会の意義みたいなものをまとめると、外に向けて会の活動や考え方をPRしていく、自然との共生を訴えていく、という役割とバードウォッチングの指導、会員の交流や楽しみのため、というようにいろいろな側面があるわけですね。

探鳥会・言いたい放題

今回は、約50名の会員の方から探鳥会に対するご意見をアンケート調査し、その内容をもとに、編集部員で探鳥会の現状と今後について話し合いを行ったものを座談会風にまとめてみました。この企画は編集部の独自企画であり、支部の探鳥会運営を直接左右するものではありませんが、探鳥会にかかわるみなさんの参考にしていただければ幸いです。

どうする？探鳥会.....

司会 現在の支部の探鳥会にはどんな問題があるでしょう。

(^0^) 中にはやればよい、という感じでやっている探鳥会もあると思う。

(+_+) リーダー不足、リーダーの技量不足も。

(>_<) 基本的なことができていない。探鳥会の主旨の説明や挨拶や、参加マナーの説明などしないリーダーもいる。

(^0^) リーダーを長くやっていると慣れがあつて、つい省略してしまうことがあるね。

(^-^-) 参加している顔ぶれが決まっているので、言わなくてもわかっている、という甘えもあるような気がする。

(+_+) せっかく初めての人がきても、対応がうまくなくて初心者を阻害してしまうような雰囲気がありますね。

(>_<) 鳥の名前しか教えない、という批判もアンケートの回答にあったね。

(=_) それとやはり、グループ分けして、初心者向け、分かっている人向け、と対応を変えないといけないよね。

司会 ベテラン風を吹かせる人がいる、という意見もありました。

(^0^) 私なんか、初心者には色々教えてあげるの大好きやわ。最近新しい人が来ないからその楽しみが減ったな。

(+_+) リーダーが解説しているのに、常連さんたちで勝手に内輪話をしてしまうとか、参加者側の問題もある。

(^0^) 初心者の人に来てもらっても、きちんと対応できる体制にしないとイケないわね。

(=_) でも、初めての人はそれまで見えなかったものが見えるようになって、感動して帰ってもらえることが多いのよね。

(^-^-) そうそう、初心者ばかりの探鳥会の方がかえってやりやすいと思うわ。

(=_) 次の段階として、初心者の方が自分で野鳥を見ることができるようになるようにきっかけを

作ってあげるのがリーダーの仕事だと思う。

司会 そうなったら探鳥会に来なくなるかもしれませんが、それでもいいんでしょうか。

(〇〇) それ以降も、交流の場をもとめて来るようになる人は多いよね。リーダーや会員に魅力ある人がいれば、ついこう(私のように)になってしまうのよ。(笑)

(=_=) サロン化してしまって、新しい人が溶け込みにくい、という弊害もあるのでその点は反省しなくてはね。

(+_+) 一人で見るようになって、探鳥会に来なくなるのも、それはそれでよいと思う。探鳥会は大勢くればよいということではないし、会員だから探鳥会にこなくてはならないということでもない。団体行動の嫌いな人もいるし。

(=_=) バードウォッチングも、基本的に大勢で行くのは、野鳥へのインパクトが大きいのでよくないよね。

(+_+) それと、探鳥会には色々な側面があるんだから、それぞれのニーズにあった探鳥会を企画しなくてはね。ひとつの探鳥会ですべてのニーズに応えるのは無理がある。

(〇〇) だから、今支部で行っている探鳥会の区分の意味が生きてくる。それを再認識しなくては。

(>_<) この探鳥会ではこういうことを重視する、というふうだね。

(〇〇) 探鳥会の区分といっても、理解している会員はリーダーを含めて殆どいないと思う。私らでもわかってなかったもの。

(=_=) 全会員にきちんと知らせるべきよね。「探鳥会案内」にも書いてないでしょう。きちんと区分を示して注意を促したらいい。今はみな公開、初心者・中級者向けとなっ

ていて区別がない。

(〇〇) 年10回くらいある「支部探鳥会」では、特に一般の人を対象にしていることを意識しとかなあかん。

(^-^) 支部探鳥会は回数が少ないと思うけど。

(=_=) 外部へのPRとしては、年10回くらいでいいんじゃない?

探鳥会で「自然保護」は..... しんどいですか?

司会 自然保護を探鳥会でどう訴えていくかですが.....

(=_=) 自然保護につながらない探鳥会は意味がない、という考え方もある。

(>_<) その場所を選んだら必ず発信できることはあるよね。

(+_+) 野鳥を見たい、というだけなら鳥がたくさんいるところに行けばいいことになるけど、現実には、どこで探鳥会を行っても環境破壊に直面することになるでしょう。自然保護については考えざるを得ない状況にあるよね。触れないのはかえって不自然。

(=_=) 野鳥を見て終わり、ではなく、野鳥から他の生き物のつながりにまで目を向けられるようにならないといけない。自然を好きになるだけでなくその次の段階が問題。つながりに気づけば、その場所を守る気持ちにまで進んでいくこともある。

(>_<) 野鳥が好きな人で、シジュウカラが虫を食べることを知らなかった例もあるって。

(〇〇) 初心者のうちに、きちんとそういうことをわかってもらえるようにしないとイケないね。

司会 自然保護についてあまりしつこく言われ

■探鳥会の区分について...■

座談会中に出てくるように、現在、三重県支部では、支部で企画・運営する探鳥会を次のように区分しています。ご存じない方も多いと思いますので、この場で確認しておきたいと思います。

- 支部探鳥会...特に公に向けて会の活動理念を訴えていく探鳥会で、会員以外の一般の人にも広く対象にすることを意識して企画するもの。原則として大勢で観察しやすく、公共交通機関が利用できる場所で行っている。
- 地区探鳥会...地区で自由に企画する探鳥会。会員限定、夜間開催、キャンプなど、ユニークな企画も可能。
- その他の探鳥会...環境の変化や開発計画などに対応する定例探鳥会や、他の団体と共催の環境教育を目的とする探鳥会など。

ひとくちメモ

- るとしんどくなる、という回答もあります。
 (=_) でも、同じ人が、そういうことが分かってよかった、と書いているのよ。
 (~-) 逆にもっと自然保護のことや野鳥以外のことも知りたい、という意見も多かったね。
 (=_) 反対運動に引き込むような言い方をしてしまうとしんどくなる。くどくど言う必要はないと思う。
 (~0) 地区探鳥会の一部では趣味的なことを重視した探鳥会を企画してもいいかもしれないけど、少なくとも支部探鳥会では自然保護の重要性について強く訴えるべきやね。

リーダーさん、がんばりましょう。...

- 司会 リーダーについてはいかがですか？
 (~0) 野鳥が出なくても楽しい探鳥会はある。やはりリーダーの技量は大切。
 司会 皆さんリーダー研修会には出られたことありますか？(ほぼ全員が挙手)
 (=_) リーダー研修会は重要。でも、やればよいというわけではない。以前受講したものではマニアックな識別の話などがメインになって、基本的なことができていなかった。
 (+) リーダーの中には、もうわかっている、今さら研修会に出る必要はない、という人もいるよね。
 (~0) 私達も反省しなくては。今後は、研修会に出なければリーダーは出来ない、というくらいにしているのでは。
 (~0) 初心に戻る場があることは重要よね。
 (+) 免許更新のようなものね。(笑)
 司会 ボランティアでやっているんだから、そんなことは強制されたくないという人もいますよ。
 (~0) みな、イヤイヤやっているわけではないんだから、分かってくれるはずや。
 (>_<) せめて支部探鳥会のリーダーをやる人は、一定のレベルに達している人でなくてはいけないと思う。
 (=_) 私なんか、最初、道案内でいいから、とリーダーにされたの。そういう時代が長かったから。
 (~0) 今、探鳥会も転機に来ていると思うよ。
 (>_<) いろんな会が自然観察会をやっている、きちんとした探鳥会をやらなくては野鳥の会の存在意義がなくなってしまうと思う。

- (~0) きっかけは野鳥が好きだけでも、リーダーとしては「自然と人間の共生」を頭においておかななくてはね。
 (+) 誤解している人が多いけど、「野鳥との共生」ではいけないよね。野鳥が好き、で終わってしまうと、クマタカがいるからダムを作るな、というレベルの考え方で終わってしまうし、それでは馬鹿にされるだけ。
 (~0) リーダーをする人はそこをしっかりとっておかないといかんわね。探鳥会にどう取り入れるかは別問題としても。
 (=_) 会に入っていること自体が、会の力を大きくすることに役立っているんですよ、ということは会員に伝えて欲しいね。
 (~0) リーダー研修会でそういう「話法」みたいなことも教えて欲しいな。
 (~0) 探鳥会ごとに今日の探鳥会についてどうでしたか、というアンケートをとれば？
 (~-) おそろしい。リーダー皆いやがるわ。
 (+) ええねん、この場では何でも提案して。役員会じゃないんやから。

リクエストにお答えできない理由...

- 司会 その他、今日はどこへ行こうか、と迷うほど探鳥会があるといいとか、遠くへ遠征したい、とかいう回答があります。
 (=_) それはおかしい。自分達で行ける力をつけるまでが探鳥会の仕事で、あとは自分達でいくか、本部のツアーを利用したり、公開されている他支部の探鳥会に参加すればいいのよ。
 (~0) でも、そういうことになると、グループで探鳥地へ行って自然へのインパクトが大きいことをしてしまうことになるかもしれないわな。だから、始めが大事なんやな。その辺のマナーをきちんと身につけてもらうのもリーダーの仕事やろ。
 司会 もっとあちこちで探鳥会をして欲しい、場所がいつも同じ、という意見もあります。
 (=_) 探鳥地を知りたい、次から自分で行くということかな。そのサービスを望むのは間違いよね。支部の探鳥会は商業的な行為をしているわけではないし。
 (>_<) 同じ場所で環境の変化を見ていく、というのにも意義があるんだから。リーダーも不足しているし。

- (~0) しかし、こうして話していくと、リーダー経験者として耳の痛いことばかりやな。今日はほんと、反省したわ。
- 司会 じゃ、逆にリーダーとして参加会員さんに望むことは？
- (^0) いつも来る人は、リーダーのサポート（初心者フォロー）をしてくれること。
- (>_<) 探鳥会の進行を無視して行動したり、井戸端会議に花を咲かせたりしないこと。
- 司会 探鳥会の感想では、リーダーさんに見せていただいた、ありがとうございましたという人が多いです。
- (=_=) 初めの人とはともかく、会員の人側もいつまでも受身なのは問題。いつまでも人に見せてもらっている、というのはもったいない。感動が減ってしまうと思う。
- (+_+) アンケート回答者でリーダー経験者24名のうち7名がもうやりたくない、というの是一方的にサービスするのに疲れて来たのもあるんじゃないかな。

リーダー不足なんだから、新しいリーダーを育てなくてはね…。

- (^-) やる気のある人が、やる気を失わないような会になっていかななくてはならないと思う。

司会 今日はありがとうございました。探鳥会は会の活動の大きな柱ですが、その意義や実態を見直すべき時期に来ているのかも知れません。リーダーはみな野鳥や自然を大切に思い、人と自然、人と人のつながりをもとめて探鳥会を企画・運営しています。今後は一方的なサービスのやり取りに終わらせるのではなく、次世代のリーダー育成も視野に入れて、有意義な探鳥会となるよう、会員各自で努力していきたいものです。なお、今回のアンケートでは皆さんに大変貴重なご提案・ご意見をいただきました。この場でご紹介できなくて残念ですが、参考資料として企画部に提供させていただきたいと思います。

まとめ・小坂里香（編集部）

テーマ投稿

〈探鳥会と私〉

探鳥会は人との出会い

西浦 克征（津市）

平成元年、2度目の尾鷲勤務で、単身生活の暇つぶしにと始めたバードカービングが鳥との出会いでした。

田舎（櫛田川上流）育ちで、社会に出てからも山登りや釣りなど、結構自然に親しんでいたつもりでしたが、鳥に関しては殆ど知らない状態でした。

カービングを始めてみると、毎日近くで見られるスズメでも、意外と背中や腹側の羽根の形や色などを見ていないことが解りました。そこで、自分なりに双眼鏡やスコープを選んで、休日には近くの岩田池や半田の里山を歩いていましたが、やはり1人での限界を感じて、野鳥の会に入れていただくことにしました。それが平成7年2月でした。

初めての探鳥会は、亀山の椿世・椋川で、これを皮切りに伊勢、松坂、伊賀上野、四日市、多度など勤務地が四日市に変わっていたことも

あって、約3年間は余暇のほとんどを探鳥会に向けるようにしました。

探鳥会では多くの鳥に出会い、それにも増して、多くの人たちとの出会いがありました。鳥、草花等々について聞いたり、教えていただいたり、話をすることで技術畑中心の狭い視野が広がり、人生観にもわずかばかりの余裕が出てきたように思います。

探鳥会で鳥とそれにかかわる環境について、知識を広め、人との輪を広げていくことで、自然保護にもつなげていけると思います。そのためにも、周囲の、少しでも興味のある人たちをさそい、輪を広げていくことが大切です。また、その時には、自分が探鳥会に参加した最初の頃の不安な気持ちを思い出して、初めての参加者に接してあげたいものです。

最近では、探鳥会にもご無沙汰ごみ、またバードカービングの方もぼちぼちで、年数の割に進歩が見られませんが、今後も、「鳥や草花との出会い、そして人との出会いを大切に」を心掛けて取り組んでいけたら、と考えています。

思い出の探鳥会

鹿島 素子（四日市市）

鈴鹿川河口で探鳥会がありますが来ませんか？とお誘いをいただきました。

いつも家族と海を見に行っているところなので、「行きます」とお返事したものの、さてどの道を通って行っていたのか、全くおぼえていなかったことに気がつきました。

当日、どうにか現地にとどりつくことはできましたが、探鳥会では緊張のあまり、どのように鳥を見たのか殆ど覚えておらず、望遠鏡が重く肩に食い込んで、帰り道が遠かったことだけが思い出されます。

フィールドノートを見ると、この探鳥会が第1頁めにあり、

「快晴で暖かい。10時より13時ごろまで。現れた鳥計35種。鈴鹿川河口より磯津の堤防を南へ。Mさんに初めてお目にかかる。」と、記されています。

今までに何度となく来ていた海は青一色の風景にすぎませんでしたが、この探鳥会を機に一変した景色となって目に入って来るようになりました。

この河口から南へ3キロのところにある派川河口。そこまでの海岸堤防内側に続く養魚池や、池の周りの背丈を越す芦原や草原は、現在

探鳥会10年生

加島 隆子（伊勢市）

入会して、案内をいただいた探鳥会には、出来るだけ参加するように心がけて、早10年になります。

おかげで海や山里の鳥の名や、鳴き声を教わり、自然の移り変わりも見聞きして慣れ親しんで参りました。案内をしてくださるリーダーの方は、1年も前から計画を立て、事前の下見など、ご苦労なことと思います。

楽しみにしている当日雨になってしまったり、また他の行事と重なることも度々あり、そのような時はとても残念で仕方がありません。同じ1年間でも、あちこちと探鳥出来る年と、そうでない年があり、近年集まる人も、同じ顔ぶれになって

よりずっと未利用地が多く、四季を通じて多くの野鳥が見られました。

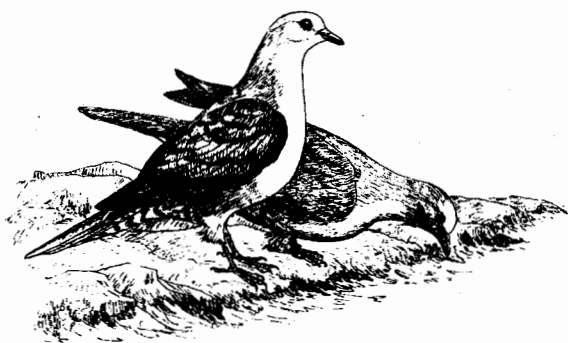
それ以来、ちょっと河口まで行って来ます、と車で出かけ、池や草原を縫って走り回り、イチジクの道とかケンケンロードとか、キンクロ池、おぼけアパート、お屋敷などいろいろな勝手に名前を付けたりして、すっかり虜になり、1年に50回60回と通っていました。

やがて野鳥たちの世界を少しずつ知るようになり、地球が丸いと実感するようにもなりました。

ある日突然、草が工場になり、トラックの会社が出来、下水道の終末処理場の工事が大々的に始まって、草に頭だけかくしてじっとこちらを見ていたキジも姿を消しました。野外活動をする人もだんだん多くなり、週末はゆっくり鳥も見られなくなり、次第に私だけの探鳥会数も少なくなってきました。

このごろでは、誰にも邪魔されずにゆっくりできる日、それはお正月元旦くらいです。毎年、お屠蘇を飲んで年賀状を見ている人を放りだして、いそいそ車を走らせて河口に行くと、広いフィールドは完全に私だけのものです。

私に、小さな翼が生えたのも、野鳥をめぐる色々な楽しみを知ったのも、この探鳥会が始まりでした。



きたようで少し淋しく感じます。

今年は1月から伊勢でも雪が積もり、2日間も続く大雨でやっと本日1月28日、快晴になり、伊賀の余野公園探鳥会と伊良湖探鳥会が重なって、どちらへも行きたいのですが、ちょっと欲張りかな！！波も静かそうなので、船に乗ることに決めました。遠く津や四日市からも参加され、海岸の砂地を踏みしめながら空を見上げたり山や海を見ての、足腰も鍛えられた探鳥会でした。

オオルリと出会った探鳥会

小津 みゆき (松阪市)

4月21日、桜の花が終わり松坂公園は桜と楓の若葉を中心にした黄みどりの世界でした。

大手門からウォッチングを始め、歴史資料館を抜け、少し木立が繁り下草のある中でアカハラ、シメを観察しました。

私は入会して2ヶ月余り、どの鳥を見ても初めての出会いばかり。望遠鏡をセットして親切に解説して下さる会員の人たち。私は野鳥ノートに名前と個々の鳥の特徴を少し書き添え、双眼鏡のピントを合わせることに一所懸命でした。

ビンズイ、カワラヒワ、マヒワ、ツグミ、コゲラ、と次々に姿を見せたり飛び去ったりします。今ならばそれぞれ名前を聞けば、頭の中に姿が浮かびますが、あの時は耳新しい名前との出会いばかりでした。

公園の西側を回り、本居記念館の坂道にさしかかった時です。やはり入会して間もない方が、「あっ、青い鳥。すごくきれい」と声をあげました。肉眼でも見えるほど近くにあります。「オオルリ！」先輩の方は言うより早く

望遠鏡をセットしてくださいませ。

レンズの中には今まで見たこともないコバルトブルーの小鳥が1羽、楓の木の枝にゆったりととまっていました。白い腹とブルーの頭、背中のブルーに日の光が当たり、若葉のグリーンとよく調和しています。代わる代わる望遠鏡をのぞきました。

オオルリは、14、5名のメンバーが一巡する間ずっとそのまま…。そして、本居神社の森の中に姿を消してしまいました。

あれから5年。

松坂公園は石垣修理のため、殆どの大きな木が切り倒されたり移植されたり、あの時の木々とその下草も綺麗に整理され、シメもシロハラもビンズイさえも見られなくなりました。何年か先に木々が安定し下草が繁ることを願っています。感動したオオルリも、最近松坂公園を素通りのようです。

しかし、私はこの初めての探鳥会でのときめきが忘れられず、時間の許す限り、今も探鳥会に参加しています。回を重ねるたびに、私のノートには鳥の名前と場所又、顔なじみになる会員の方々も増してきています。

探鳥会に参加して

山下 圭子 (松阪市)

カモたちに会えました！ 1月19日山室ちとせの森探鳥会に参加しました。会員歴は長くても、探鳥会参加は初心者マークです。ツグミでさえも、この日初めて見ました。それまで椋鳥をつぐみと思い込んでいたくらいです。まず森の説明、そして妙楽寺の由来を聞きました。手入れされてるかどうか不明なこのお寺が、私には急に身近に感じられる、この森が特別な場所になってしまう、これも探鳥会の醍醐味の一つだと思います。

雪のあとがまだかすかに残り、鳥を見るという目的がなければ結構忘れる寒さです。八条池まで「鳥に食べてもらいたくて赤い実をつける」という木のけなげな話を聞きながら歩きました。

さあ、カモたちとご対面。今年は数が少ないと聞いていましたが、マガモが20羽、コガモが

1羽、なんとトモエガモが14羽もいました。コガモはどちらのカモの子かなと思ってたら、コガモという大人の(?)カモだったんですね。

スコープを覗かせていただく。地味なカモたちが、たちまちスクリーンのスターに変身します。池に張った氷の上で羽を休めるカモたち。足が赤いのはシモヤケなのかしらと思ったら、マガモの足って赤いのだと知りました。くっきり見えるトモエのクマドリ。繁殖期の今だけこんなに派手だと知りました。

広がっていく静寂の世界、工事の音さえなければ快適なのに。オシドリには残念ながら逢えませんでした。

メジロ、アオジのさえずりを聞き、憧れの鳥のひとつエナガも見ることができました。点々でしたが…。テレビでしか見たことのないノスリも見ることができました。目の前で広がる、私の「自然のアルバム」。これからも機会があったら是非、探鳥会に参加したいと思います。

2000年度第3回三重県支部理事会(2000.7.16 三重県女性センターセミナー室B)

報 告

●市川副支部長

(財)日本野鳥の会中部ブロック会議参加報告

●保護部

*自然環境保護地域の調査を計画により実施した。

*平成12年度環境創造活動助成金対象の講習会(ハートフルみくも・9月10日)開催報告。

*名張市滝之原保安林とオオタカ保護との関係に関する活動現況報告(抗議文提出)。

*県が募集した「地域で守りたい自然・野生生物」について、本会でまとめた分20余通提出。

*長島町木曾川の河川工事に関する協議に意見を出していく。

●研究部

*シギ・チドリ類調査について春期・終期:実施、冬季:予定

*平成12年度鳥獣保護区設定効果調査について、繁殖期の調査を実施。

*今後、狩猟期間内の調査を実施し、2001年2~3月に報告書を作成する予定。

●編集部

*「しろちどり」29号を編集中、12月中旬発送の予定。

●企画部

*バードウォッチング案内人ミニ研修会(10/8名張川、11/12局ヶ岳)実施。12/23安濃ダムで予定。

*みえ・スカイフェスタ2000で野鳥の写真展示。

*津市中央公民館の短期講座「バードウォッチング」

(10/12安濃川、11/9青少年野外活動センター付近)実施。12/14偕楽公園で予定。

*建設省三重県工事事務所の「水辺探検クラブ」(鳥類調査)へ協力(鈴鹿川)。

協 議

◇三重県支部の旅費規定について《事務局》

◆役員の理事会出席のための交通費、出張旅費について協議~一部決議、一部は継続協議。

◇三重県支部の2001年度の活動方針と体制について《事務局》

◆2001年度の方針~「(野鳥を通して)自然と共存する考え方を広めることと、それができる人材養成」とする。

◆部長会議を開催し各部署の意思疎通・連携を密にする。

◆事務局長への手当て支給について検討する。

◇三重県支部の役員改選について《事務局》

◆次期役員候補者を1月末までにあげる。役員の選定基準として「自然と共存する考え方」を広める意欲のある人とする。

◇津市白塚海岸の生態系の保全を求める要望書について《事務局》

◆要望書提出に同意。

◇支部報に掲載する理事会の報告内容について《編集部》

◆掲載内容は「理事会の協議事項およびその概要程度」とする。

◇2001年度の探鳥会計画などについて《企画部》

◆計画に当たっては本会の理念を推進・拡大する構えをもったものにする。

◆地区ごとの年間計画数は例年程度で、1月末までに提出する。

◆4・5月分については実施計画書を1月末までに送付のこと。

◇「身近な自然、里山を体験し散策する県民デー(3月20日)」について《企画部》

◆三重県環境県民会議主催。地区で団体として参加する。

◇平成12年度ガン・カモ類一斉調査について《研究部》

◆例年通り2001年1月に実施されるので参加する。

●「里山の野鳥」の写真を募集します。

企画部では、身近な自然の保護を広く訴えるため、「里山」の展示物を作成し、活用していく方針です。今回は、里山（身近な林地、農耕地など）に生きる野鳥の写真を募集します。（背景に野鳥が生息する「里山」の環境が写っているものが望ましい）

引き伸ばしの費用は支部で負担いたしますので、原版（ネガ・ポジ）と、サービス版（E・L）の写真をお寄せください。

なお、お寄せいただいた写真の採否は担当にご一任ください。

また、リクエストに応じて各地のいろいろな里山の写真を撮影してくださる方、展示物を作成してくださる方も募集しています。

お問い合わせは・・・企画部・橋本 祐子（ ）までお願いします。

●販売事業担当よりお知らせ

お勧めの本のご紹介です。

『子どもとの自然観察スーパーガイド』（財）日本野鳥の会レンジャー 日高哲二著作

定価2100円（税込み）

自然の面白さを子どもたちに伝えたい。実際に行った自然観察会の記録をもとに、手順や手法が具体的な事例を使って紹介されています。子ども向けの観察会を考えている方は是非どうぞ。

お渡しするのは探鳥会の日になります。郵送や宅配はできませんのでご了承ください。本の詳細は「野鳥」誌3月号にも掲載されます。

ご希望の方は担当・中村洋子（松阪市 電話 ）までご連絡ください。

●シロチドリ保護活動参加募集のお知らせ

春からのシロチドリの繁殖期に向け、今年も繁殖地の保護活動を行います。杭打ち、網の設置など人手が多ければ簡単な作業ですので、多くの会員の方の参加をお願いします。

日時・場所：3月18日（日）10：00、田中川右岸（カワウコロニー前）集合

※国道23号線沿い、河芸町のスーパー・オークワ南から海岸方向に

入って堤防に突き当たり、すぐ左手になります。

近鉄線利用の場合は千里駅から徒歩約10分。

持ち物：軍手・カケヤ（あれば）、軽食、水筒、防寒具等。双眼鏡も忘れずに…。

カワウは繁殖期の真っ最中。カモやカモメ類などの水鳥、そしてもちろん、かわいいシロチドリの観察もできますよ～。

お問い合わせは、保護部・西村 泉まで・・・



●「しろちどり」へのご投稿・ご意見は…

来年度は役員改正（任期2年）の年になります。この役員改正にともない、支部報「しろちどり」の編集部も交代となりますが、2月現在、次期編集部が決定しておりませんので、投稿等は引き続き今までのあて先をお願いします。

宛先… 〒

小坂 里香

Tel・Fax

E-mail

●「探鳥地マップ」バックナンバーのお知らせ

前号・カモ特集で、過去に支部で作成した「探鳥地マップ」のバックナンバーのご紹介をいたしました（6頁参照）、内容が不十分でしたので補足させていただきます。

マップがあるのは次の場所です。

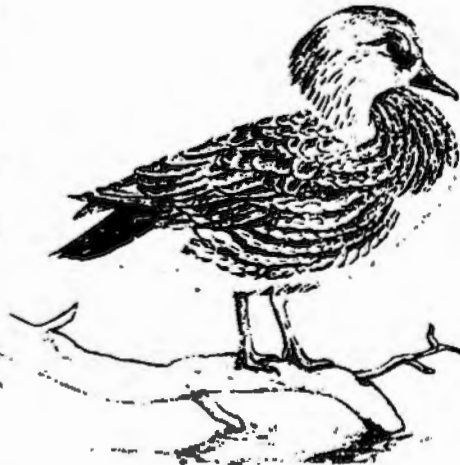
伊坂ダム・鍋杖湖・二つ池・石垣池・横山池・五十鈴公園・鈴鹿川河口・真泥池

欲しい方は、コピー代の実費（一ヶ所20円）と返送用切手90円を添付した封筒を同封の上、封書でご請求ください。

（例：全部ですと160円+90円分の切手が
必要です。）

なお、作成当時より工事その他により現地の状況が変化している場合もありますので、ご注意ください。ご請求は、3月末までに上記 編集部あてお願いします。

*前号5ページで「井坂ダム」（四日市市）とご紹介したのは、「伊坂ダム」の誤りでした。会員の方からご指摘をいただきました。お詫びして訂正します。



事務局日誌

2000年

11月23日（木）2000年度第3回理事会（三重県女性センター）

30日（木）木曾川の河川工事に関する話し合い（長島町役場）《保護部》

12月14日（木）津市中央公民館主催の短期講座「バードウォッチング」にリーダー2名を派遣
《企画部》23日（木）安濃ダム探鳥会のあついで「バードウォッチング案内人・ミニ研修会」を開催
《企画部》

2001年

1月9日（火）三重県の《平成12年度ガン・カモ類一斉調査委託》を受託《研究部》

10～17日 上記ガン・カモ調査実施

2月11日（日）2000年度第4回理事会（サンライフ松阪）

18日（日）愛知県野鳥保護連絡協議会との木曾岬干拓地に関する話し合い《保護部》

特別寄稿

「やさしい気持ち」を考える… どこまで許される？野鳥への給餌

編集部より～前号で、野鳥の会が提唱しているフィールドマナー「やさしいきもち」についてご紹介したところ、会員の方から、「気をつけよう、写真、給餌、人への迷惑」の部分について、「給餌」の定義がよくわからない、というご意見をいただきました。確かに冬場など、庭にくる野鳥に果物やミルワームを与えておられる会員の方も多く、バードショップでもバードフィーダー（給餌器）などが販売されていて、一見、野鳥の会で給餌を推奨しているかのような印象も与えかねません。

原則的には野鳥や野生動物に無節操に餌を与えることが良くないことである、ということは会員の皆さんには常識だとは思いますが、どこまでなら許されるのか、どこからが行きすぎなのか、明確な線引きは難しいものです。そこで、「気をつけよう」とはどういうことなのか、写真の問題も合わせて、本部・ネイチャースクールのご意見をうかがってみました。以下、お寄せいただいた回答です。

人と自然の共存を目指す（財）日本野鳥の会では、フィールドマナー『やさしいきもち』を提唱し、自然保護につながるようなバードウォッチングを推奨しています。本会では支部事務局にお送りしている「探鳥会リーダー通信」などを通して、バードウォッチング以外にも野外活動が広く一般的に盛んになっていくという現在の社会情勢をふまえた、野外活動全般に通用する標語の検討を行ってきました。それを経て、「野鳥」誌2000年9・10月号より連載「考えよう！広めよう！フィールドマナー」を開始し、『やさしいきもち』の歴史から前書き、各標語と一つずつ、説明しています。

2000年11月発行の「しろちどり」第29号で新しい『やさしいきもち』をご紹介いただきましたが、会員の方からご意見をいただいたことですので、考え方についてお伝えしたいと思います。ご意見は、「写真や給餌に気をつけるよう書かれているが、会で餌台やブラインドを売っているのは矛盾しないか？」という内容のもので、標語『気をつけよう、写真、給餌、人への迷惑』に対してのものです。『き』の標語については、野鳥誌の連載では5月号にて紹介する予定ですが、写真や給餌を止めようという意味ではありません。野鳥への接し方にはさまざまあっていいわけですが、法律で禁じられている「捕る」「飼う」はもちろん、野鳥やその住みかに影響を及ぼすことは控えようというのが基本的な考え方です。

それでは、どこまでが影響を及ぼす控えるべき行為かということ、ことは簡単ではありません。場所、季節、鳥によっても違いがあるし「個人の探鳥でさえまったく野鳥を脅かさないことは難しい」「探鳥会のような多人数での観察は控える

べき」というような極端な意見もあります。一方、あるがままの自然を楽しむ趣味としてバードウォッチングを広めるために、探鳥会の貢献は大きいと言えます。フィールドマナーの考え方を広める意義もありますし、自然保護のために活動している全国の支部の方々には探鳥会参加がきっかけという人が少なくありません。

要は、一律にいい、悪いを論じるのではなく、それぞれにプラスの面とマイナスの面があると認識することが大切です。写真や給餌も個人の楽しみとしては否定されるべき行為ではないし、普及上のプラス面はあるはずですが、近年、野鳥の繁殖期の撮影で影響が指摘されたり、給餌ではカラスやドバトなど、人との軋轢が問題になっている種（サルについては条例で禁止という場所もある）、生態系にマイナス面が考えられる移入種、水質悪化など環境へのマイナスが指摘される場所など、給餌を控えた方がいいと考えられる場合が議論になっています。

標語は写真や給餌の是非を言っているのではなく、マイナス面も考慮しましょうという主旨であることをご理解いただきたいと思います。なお、本会のショップで扱っている給餌台には、給餌の影響についての注意も入れています。

（文/ネイチャースクール 山本浩伸さん）

〒151-0061 東京都渋谷区初台1-47-1
小田急西新宿ビル1階（財）日本野鳥の会
ネイチャースクール

TEL: 03-5358-3516

FAX: 03-5358-3608

E-mail: yamamoto@wbsj.org

とくに給餌について私見を付け加えるならば、会員として最低限心得ておきたいマナーは以下のようなことではないかと考えます。あくまで原則ですが、自然環境や第三者、そして野鳥たち自身に迷惑にならないようにしたいものです。

- 1、個人が楽しむ目的で、必要最小限の規模・量とし、原則として公共（庭以外）の場所では行わない。
- 2、冬季に餌が不足する意味で行うものなので、始めたら責任をもって続ける。春になって必要がなくなったらやめる。
- 3、あくまで相手は野鳥であることを忘れず、ペットのように飼いならず目的で接することがないようにする。
- 4、写真撮影や観察だけを目的とした給餌は行わない。

(編集部：小坂 里香)

家の庭に遊びにやってくる小鳥たち 水森 和子 (松坂市)

野鳥の会に入会させてもらってから、今年で3年目に入ろうとしています。

私の住んでいる所は、松坂市の中心より南の方へ4km位入ったところです。

以前、近くには、「十一山」、「篠田山」、「山室奥墓」等の雑木山、田んぼ、谷、等自然がいっぱいのところでしたが、ここ30年位で、宅地開発により山がとりこわされ「十一山」はなくなりました。でも、まだ自然は残っています。

そこで、私は家の庭に遊びに来る鳥たちをバードウォッチングしてみることにしました。

スズメ…少しゴハン粒、パン粉を撒いてやると、まず先発隊が偵察にやってくる。そして、大勢でやってくる。その中でも太っ腹のスズメは、その場でエサをついばむ。少し気の弱いスズメになると、エサをもってカーポートの上で、もうひとつ体の小さいスズメになるとおこ

ぼれをと、それぞれの性格が…。

「今年もやってきました」と、白い紋をつけたジョウビタキが朝、「カタカタ」といつもの場所で虫を催促。

カワラヒワが「ヒマワリの種がないかなー」モズがテレビのアンテナの上で「ギティギティ」

アオジが畑の草の中で「チ、チ、チ」キセキレイが「私の黄色とてもステキでしょう」と、そばの溝で。

メジロが「ビワの花の蜜はおいしいよ」ウグイスも「ジャ、ジャ、ジャ」、そして、ツグミも「私を忘れないで今年もよろしく」と。

一瞬、ヒヨドリの姿が見えなくなることがありますが、すぐ「ピーピー、私はここにいます」と、声高らかに、アピールしてくれます。そんな鳥たちよ、私を楽しませてくれてありがとう。精一杯歓迎しますからこれからもよろしくね。

鳥信・短信・ぴーちくばーちく

● E メールアドレス公開／お便りお待ちしマース (°o°) *マナーを守って楽しくメールのやり取りをしましょうネ。

☆E メールアドレスがまちがっていました。ごめんなさい。

m(._.)m コマン

前号でご紹介した山中 久次さんのアドレスに一部誤りがありました。

誤) → 正)

(始めのjが抜けています。)

●野鳥情報

時ならぬさえずり 深田 将希 (勢和村)

12月23日のことです。勢和村片野の山地、標高300メートルくらいのところを歩いていたら、たくさんのルリビタキに逢いました。それがみなさえずってびっくりしました。そこらじゅうにいるという感じです。ぽかぽか陽気とはいえ、こんなことってあるんでしょうか。この日はクマタカの飛翔も見て、いい気分でした。

(≥▽≤) ♪ ナイス!

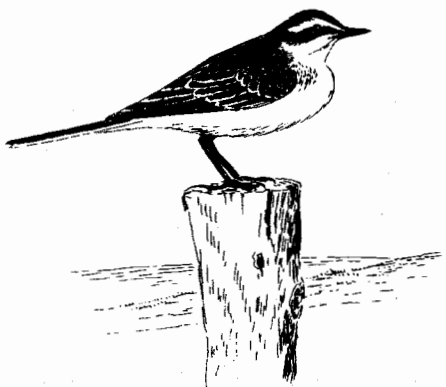


サハリン南部でのバンディング

平井 正志 (安濃町)

2000年9月中旬から2週間ロシア、サハリン州でバンディング(注参照)に参加した。

一行はリーダーで根室在住の松尾さん、山階鳥類研究所の前田さんと平井の日本人3人である。松尾さんはこれまでに何回かサハリンを訪問し、バンディングを行っている。現地ではロシア人の案内人(通訳、運転手、料理人を兼ねる)のバヤルキン氏が同行した。今回は南部西海岸で行った。適当な宿泊施設はないため、キャンプでのバンディングとなった。



カット：ツメナガセキレイ

ロシア、サハリン州・ロパティノ村。ユーラシア大陸に広く分布する。日本では北海道の一部で繁殖する。その他の日本各地ではごく稀に見られただけである。キセキレイによく似ているが、背中の色が緑がかった色なのでキセキレイと区別できる。いくつかの亜種が知られており、顔の模様で区別される。バンディングに訪れたサハリン南部のロパティノ村の牧草地ではジャガイモ畑で餌をとったり、牛の後をつきまとして、牛に驚いて逃げる昆虫を捕っていた。オスの下面は見事な黄色、メスは白っぽい。やや濁った声で鳴く。

(説明文、カットとも平井さん制作の2001年カレンダーから拝借しました。)

バンディングサイトは予め地図で調べただけであり、現地を訪れたのは皆今回が初めてであった。現地で決めたサイトはネベリスク市から約10km南の海岸近くの台地の上の牧場である。牧場にテントを張り、牧場のはずれのハンゴウソウやカラフトイバラの藪を切り開いて網を張った。天候にはあまり恵まれず、最初の数日は台風崩れの低気圧による雨と強風、後半も低気圧による雨で、本格的にバンディングが行えたのは4日間だけであった。最初の荒天の間ヒシクイの渡りが見られた。1日で約50羽が南下した。またセダロカモメも海岸よりを多数が南下した。さらに猛禽類も小鳥を追って南下しているようで、チゴハヤブサ、ハイロチュウヒ、オオタカ等多くの猛禽が見られた。この期間中サハリンで放鳥したのは400羽あまり、最も多かったのはアオジで、次にノゴマである。この点では北海道でのバンディングと

東紀州地区探鳥会に参加して

安藤 宣朗 (四日市)

早春の東紀州は、景色も天気もよし、家族的で和やかな皆さん、そして40種類を超える野鳥との出会い、まさに三拍子そろった最高の探鳥会でした。銚子川の河口から見る山腹の枯れ木には、何とオオワシの姿、大きな黄色いくちばし白い肩、しばし息をこらして無我夢中。河口にはカモメ、ウ、カモ、サギ類が数多く観られ、図鑑と照合しながらゆっくりと鑑別する事が出来ました。素人の私の収穫は、カモメの見分け方でした。

船津川の前柱池の湖面では、キンクロハジロ、ホシハジロ、ヒドリガモ、マガモに出会い、その草原では、可憐なベニマシコのカップル、ほんの目先にいる数羽のアオジ、ジョウビタキ、カシラ

ダカ、電柱にとまるシロハラ、空にはミサゴの優雅な舞いなど、何を採ってもすごいすごい連続でした。

もう一つ付け加えておきたいのは、お世話を頂いた役員の方をはじめ、参加された方々が実にフランクで趣きがあり、和気あいあいこれぞ「ザ探鳥会」だなと感じた次第です。

帰りの車を走らせながら、今日覚えた40種におよぶ鳥の名前を忘れない様に口ずさみつつ、四日市へ帰りました。

あまり変わりはないようである。しかし、日本では比較的稀な種類を多く放鳥することができた。カラフトムシクイ、これはごく小さな深緑色のムシクイで、黄色い2本の翼帯と黄色の腰が目立った。ムギマキ、日本では日本海岸の島で稀に見られるのだが、2羽放鳥した。胸のオレンジ色が鮮やかなオスであった。シマゴマ、胸に鱗もようのある小型のツグミ。ツメナガセキレイ、バンディングサイトの牧場に多数おり、牛の後を追って、牛に驚いて飛び出す昆虫をねらっていた。キセキレイと似ているが、背中がキセキレイの灰色とは異なり、緑がかった色であり、脚も黒い。3羽放鳥した。マミチャジナイ、アカハラによく似たツグミで、明瞭な眉斑がある。日本でも少数が冬鳥として見られる。コホオアカ、小さなホオジロ類で、ユーラシア大陸で広く繁殖するが、日本では渡りの際、対馬などで見られるに過ぎない。サハ

リンでは昨年、シマノジコも放鳥されている。これらからサハリンの鳥相は大陸の鳥相と似た要素が多いと思われる。これらの鳥が直接日本に渡るのであるか？渡るとすれば、これらの稀な種類ももっと多く、日本で見られても不思議ではないのだが、実際は日本海岸の島で見られるに過ぎず、三重県を含む太平洋岸ではほとんど見ることができない。あるいはサハリンから日本海を横断して沿海州に渡るのだろうか？今のところ分かっていない。

今回は2週間ほとんどが雨と風の中でのキャンプであったので、かなり厳しかった。強風の夜にはテントがつぶれないかと心配した。しかし、バンディングの他、ロシア経済の厳しい現状も見ることができ、みのりは多かった。サハリンには手つかずの自然が多くのごさされている。休暇が取れば再び訪れたいものである。

注：バンディング：かすみ網を用いて鳥を捕獲し、番号を付した脚輪を付けて放し、鳥の渡りや生存年齢を調べる。鳥類の生態学には欠かせない手法。日本では山階鳥類研究所が指導し、環境庁の捕獲許可を取って行われている。かすみ網の所持や使用もこの目的のためには許可されている。鳥を無傷で網からはずし、放鳥しなければならないので、熟練が必要で、日本では約500人くらいが、許可されている。イギリス等では多くのバンダーがいる。

局ヶ岳中腹への探鳥行に参加して

福井 勝 (嬉野町)

私の野鳥への思いが始まったのはごく近年のことです。そのせいか、夕暮れに幾何学模様を作って飛ぶ野鳥の群れに呆然と見とれたり、釣り糸を垂れているとき水面に飛び込んでくるカラセミのすばやさや色調に感嘆したり、まるでさえずりのドームに入ったような初夏の溪谷で感動を覚えたりなど、どんな場面に出会ってもすべて新鮮です。

早く皆さんに追いつくためにどうすればよいか。いろいろなことを試みましたが、やはり探鳥行が一番です。リーダーさんが鳴き声で何の鳥か目安をつけたり、飛び方で識別したり、完全にとまっている時には特色の一つ一つを解説してくださるので、その場ですぐ覚えられます。

探鳥地は河川、山間部、池、海岸、公園とさまざま、里山問題・山腹での開発・道路工事など、自然環境について色々なことを考えさせられる

状況にも出くわしたりします。今回の局ヶ岳では林道の工事中で、密植された人口植林の間引きのためと、山を利用しての地域活性化を歌い文句としているものの、地元建設業者へ仕事をつくるための力が見える感じがしました。

このようにして自然がどんどん壊されるのを目のあたりにしながら、何も言えない、行動ができないのはがゆいものです。頑張って干潟を守り、笑われながら湖沼を守ってきた人たちを考えると、何かを自分達もやらないでいいのかと、自問してしまいます。そう、私たちの前で小さな命が、どれぐらい絶えていったことか、人間もいつかは同じことになる日が来る、明日が我が身の世界であるのに。自分は、「誰かが何かやってくれるだろう」の依存人間になってはいないだろうか。

そんなことを考えながら、今後の本会の環境保護活動に期待しています。

カワセミの観察記録

久住 勝司 (嬉野町)

その鮮やかなコバルトブルー、青緑色の羽色から『飛ぶ宝石』とも『川の宝石』とも呼ばれる。探鳥会等では「あっ、カワセミだ!」と一番大きな声で呼んでもらえる鳥。この人気ナンバーワンのカワセミにも意外な一面がある。それは、近くの河川の堤防の改修工事の為取り壊される運命にある巣穴で観察することが出来た。

堤防の土砂が崩れ、オーバーハングになった所に昨年使われたものと今年使われた巣穴があり、その入り口は直径5cm、奥行きは竹を突っ込んで実測の結果80cmと100cmあり、5°~10°の角度で上を向いていた。そして竹の先にカギ状の道具をつけて巣の奥をかき出したところ、文献どおり巣材は何も使っておらず、どうやら自らのペリットを使用していたらしく魚の小骨が多く出てきた(今も保存している)。

意外なことに、子育て中、他の鳥のようにヒナのフン等を親鳥が捨てる気配もないことから、フンやペリット、食べ残しの腐った魚がたまっすごい臭気が満ちているらしい。そのためなのか、親鳥は巣穴から出ると低空を飛び、突然

水中に飛び込み、すぐに飛び出してまた前方で水中に飛び込むという、水切りのようなことを再々見ることが出来た(水切りとは、子どもの頃、平たい石を水面に向かって投げ、何回跳ねたかを競う遊びを思い出して欲しい)。

だがかわいそうなのは穴の中のヒナたちだ。巣立つまで臭い汚れた穴の中で2~3週間も過ごさねばならない。同情に値する。でも、鳥の嗅覚はあまり発達していないと聞いているので、私達が思うほど苦ししていないかもしれない。

カワセミの美しさの秘密は案外こんなところにあるのかも(まさか)。

そしてもう一つ興味をもったのは、春の繁殖時に行う求愛給餌と同じ行動が子育て中にも見られることだ。ただ違う点は、雌が雄から小魚を受け取るとすぐ巣穴に持ち込むことで、これを再々確認することができた。勿論、雄・雌とも自ら持ち込むことが普通ではあったが。

その後、巣を取り壊されたカワセミのペアは今も見ることが出来るが、新居はどこなのか…、転居通知はまだ届いていない。

探鳥会報告

(2000年11月~2001年1月分)

●第1土曜齋宮池探鳥会(明和町)

日時:11月4日(土)8:45~11:30

担当:西村泉・山田昭子

参加者:8名

観察種:27種

ジョウビタキ2・マカモ34・カルカモ1・ヒヨドリムレ・カワセミ1・カラヒワ3・セグロセキレイ2・モズ2・メジロ2・ツグミ1・ダイゼキ1・タヒバリ1・キジバト2・ウグイス1・イカル1・ハクセキレイ1・ヤマガラス1・エナガ17・ホオジロ1・カラヒワ1・キセキレイ1・トビ1・アオサギ1・スズメ10・カイツブリ1・ハシボソガラス・ハシブトガラス

●局ヶ岳山麓探鳥会(飯南町)

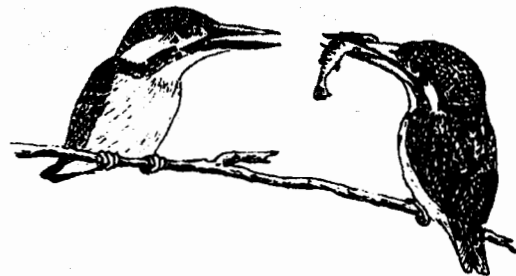
日時:11月12日(日)10:00~14:00

担当:西村四郎・中村洋子

参加者:24名

観察種:18種

●しろちどり30号●



トビ・エナガ・ヒヨドリ・コゲラ・ハシボソガラス・メジロ・カラヒワ・オオカ・ノスリ・ハシブトガラス・モズ・ジョウビタキ・アオサギ・ウグイス・シジュウカラ・ヤマトリ・ホオジロ・ヤマガラス

●県民の森探鳥会(菟野町)

日時:11月18日(土)9:30~12:00

担当:矢田栄史・高和義

参加者:29名

観察種:14種

ヒヨドリ・コゲラ・ホオジロ・メジロ・カラヒワ・コシユケイ・ヤマガラス・キジバト・アカゲラ・トビ・ムクドリ・ガラスsp・ヒガラ・シジュウカラ

*県民の森管理事務所と共催

●海蔵川探鳥会 (四日市市)

日 時: 11月22日(水) 10:00~12:00

担 当: 尾畑玲子・木村京子

参加者: 13名

観察種: 24種

クシバト・カワ・カラヒワ・モズ・ウグイス・ダイサキ・
 カイツブリ・バン・ヒヨドリ・ハシブトガラス・アオサキ・ア
 ジ・カサネ・メジロ・キセキレイ・オオカ・ジョウビタキ・ムク
 リ・ハセキレイ・セグロセキレイ・ハシホソガラス・スズメ・トハ
 ト

*海蔵川の河口から中流(観察地付近まで)の
 写真13枚を、参加者一人一人に持ってもらい、
 どんな景色がいいか、その景色とそこに住む野
 鳥とのつながりについて考えてもらった。

●木曾岬干拓地探鳥会 (弥富町・木曾岬町)

日 時: 11月26日(日) 9:00~12:00

担 当: 村田芳雄・近藤義孝

参加者: 20名

観察種: 49種

コガモ18・ヒトリカゲ7・ハシホソカモ5・カイツブリ7・
 バン1・キンクワシロ9・アオサキ2・セグロセキレイ1・キジ3・
 ムクドリ50+・ミサコ2・クシバト10+・カワ26・アジ4・
 コサキ4・イソシギ3・モズ4・ハセキレイ20+・クシバト5・
 ウミネコ2・ユリカモ2・ジョウビタキ2・スズメ100+・ハシホ
 ソ14・オオカモ32・ウグイス1・メジロ4・ダイサキ4・チヨ
 ウゲンボウ2・カラヒワ2・クサシギ2・オオカ1・ノスリ1・ハイ
 タカ1・トハト30+・クワ1・タケリ12・チュウビ1・キセキレイ1・
 コイサキ3・トビ3・ハシホソガラス100+・ヒバリ10+・
 ヒヨドリ10+・カルガモ12・ハシブトガラス10+・ツグミ2・
 タシギ1・セッカ1・ハシホソガラス100+

*愛知県野鳥保護連絡協議会と合同開催。協議
 会からもリーダー3名参加。焼却場の建設や第
 二名神の建設がすすみ環境が悪化してきている。
 一方、木曾岬干拓地の事業の中止に伴い、野鳥
 の会としてビオトープの再生を当局に要求して
 いくことの必要性を提起した。

●大野木・島ヶ原地区探鳥会 (島ヶ原村)

日 時: 11月26日(日) 10:00~14:00

担 当: 前澤昭彦・塗矢博一

参加者: 13名

観察種: 18種

ヒヨドリ・ホシロ・コイサキ・ハシブトガラス・カラヒワ・
 アオサキ・クシバト・クワ・シロハラ・ヤマガラ・カワ・トビ・
 ウグイス・カルガモ・カサネ・ハシホソガラス・ハセキレイ・セグ
 ロセキレイ

●冬の里山探鳥会 (四日市市)

日 時: 12月8日(金) 10:15~12:45

担 当: 木村京子・尾畑玲子

参加者: 15名

観察種: 16種

ノスリ1・オオカ1・ヒヨドリ多数・メジロ・アジ2・ミササ
 ィ1・キセキレイ2・クワ1・シジュウカラ・ハシブトガラス・カワ1・
 カサネ1・トハト5・モズ1・ヤマガラ・ウグイス1・ツグミ
 sp1・カシラダカ?1・カラスsp1

●丹生探鳥会 (勢和村)

日 時: 12月9日(土) 9:40~12:00

担 当: 中村洋子・谷口ひろ子

参加者: 23名

観察種: 23種

クシバト・トビ・セグロセキレイ・クワ・モズ・ハセキレイ・ヒヨ
 トリ・ツグミ・カワ・タシギ・コガモ・マカモ・ジョウビタキ・
 ヒンズイ・スズメ・ハシホソガラス・ハシブトガラス・トハ
 ト・カラヒワ・ホシロ・クシバト・オオカ・キセキレイ

●神路ダム探鳥会 (磯部町)

日 時: 12月10日(日) 9:00~12:00

担 当: 中村みつ子・松本恵理子

参加者: 14名

観察種: 21種

ホシロ・アジ・シジュウカラ・ウグイス・エナガ・メジロ・
 コガラ・カラヒワ・ヤマガラ・ノスリ・キセキレイ・トビ・チヨウケ
 ンボウ・ハシブトガラス・カワ・アオサキ・クシバト・ジョウ
 ビタキ・ヒヨドリ・オシドリ・ハヤブサsp

*釣り人の進入防止のためダム湖の管理道路が
 閉鎖されていたが、企業庁管理事務所のご好意
 で実施できた。ゴミの不法投棄のため駐車場も
 閉鎖されていたため集合場所が急遽変更となっ
 た。

●安濃ダムオシドリ探鳥会 (芸濃町)

日 時: 12月23日(日) 10:00~12:00

担 当: 平井正志・斎藤加代子

参加者: 35名

観察種: 24種

スズメ・アオサキ・モズ・オシドリ・ジョウビタキ・マカモ・
 コガモ・カルガモ・シジュウカラ・ホシロ・セグロセキレイ・ル
 ビタキ・アジ・ヤマシ・ヒヨドリ・ウグイス・カイツブリ・メ
 ジロ・カワガラス・ハシブトガラス・キセキレイ・カサネ・カワ・クシ
 バト

探鳥会報告

*オシドリは残念ながら数が少なく、20羽程度が見られただけ。上流の「落合の郷」についた途端ヤマセミの飛来、ヤマセミとカワガラスが見られて一同満足。探鳥会後安濃町で交流会を行った。

●第1土曜斎宮池探鳥会(明和町)

日時:1月6日(土)9:00~11:00

担当:西村泉・山田昭子

参加者:5名

観察種:18種

カリ7・アオキ4・カイツブリ1・ヒヨドリ6・シロハラ2・ミン
ロ12・アオジ5・ミヤマホシ13・ツグミ2・エナガ6・キジハ
ト1・コゲラ2・トビ1・ハクセキレイ1・ダイゼン1・ヤマガラ1・
ハシボソガラス・ハシブトガラス

*池の改修工事によって水に沈む場所を実際に歩いたので自然への影響を実感してもらえたのではないかと思う。

●山室ちとせの森探鳥会(松阪市)

日時:1月19日(金)9:30~13:10

担当:中村洋子・鈴木茂子

参加者:9名

観察種:13種

トモエ14・コガモ1・マガモ20・ハシブトガラス・ハシボ
ソガラス・ヒヨドリ・ツグミ・メジロ・トビ・ノスリ・モズ・ア
オジ・エナガ

*あまりきれいに下草が刈られていて、小鳥が身を隠したり出来るくらいの下草を残しての整備を市にお願いしていかないと、と感じました。

●二つ池探鳥会(伊勢市)

日時:1月21日(日)9:00~11:30

担当:山田昭子・吉居瑞穂

参加者:15名

観察種:21種

ハシボソコガモ・コガモ・マガモ・マカモ・キンクロハシロ・
ホシハシロ・オカヨシガモ・バンダイイサキ・アオサキ・カワウ・
セグロセキレイ・セグロカモメ・ハクセキレイ・ハシブトガラス・ハシ
ボソガラス・カワラヒロ・エナガ・メジロ・コゲラ・シジュウカラ・
オオカ・ツグミ・トビ・ヒヨドリ・シロハラ・アオジ・シヨウビ
タキ・キジハト・ハイタカ

*カワウが増え、カモ類が減っている。東池では数羽しか観察できなくなっていた。前年に水を抜いたせいかもしれない。

●伊良湖岬探鳥会(愛知県渥美町)

日時:1月28日(日)8:30~16:00

担当:橋本富三・久住勝司

参加者:20名

観察種:27種

ミサコ・カモメ・ハヤブサ・ノスリ・イソヒヨドリ・スズメ・メジロ・
ヒメウ・カワラヒロ・カワウ・シヨウビタキ・ハシボソガラス・チコ
ハヤブサ・コゲラ・ホオジロ・オオセグロカモメ・カンムリカイツ
ブリ・モズ・トビ・ミカイツブリ・ツグミ・ウミアイサキ・キジ・ア
オジ・クロシ・ヒヨドリ・ウミウ

*津地区としては初めての場所での開催であったが天候に恵まれ、晴れた海や島影を眺めながらの気持ちのよい探鳥会であった。

●余野公園探鳥会(伊賀町)

日時:1月28日(日)9:45~14:00

担当:塗矢博一

探鳥会報告未着

編集後記 今日窓の外でイカルがうるさいくらいさえずっていました。春が来た、と思うとうれしさがこみ上げてきます。●ついにといおうか、やっとといおうか、役員の任期終了とともに今回で編集部の大役を終えました。スタッフの協力と皆さんの応援のおかげです。今回の仕事を通じて野鳥のことが話せる「メル友」が増えたのは嬉しいことです。今後もアドレスをお持ちの方はお気軽にメールください。●後は万事よろしく、といたいところですがまだ後任が決まってません。それどころか支部の中では嵐が吹き荒れています。巻頭から波乱含みの30号になりましたが、どうお読みいただいたでしょうか。雨降って地固まることを祈ります。原稿鳥

しろちどり 第30号 2001年2月発行

専 字 濱田 稔

表紙絵 鹿島 素子

カット 西浦 克征・鹿島素子

編 集 小坂 里香

〒

発行者 (財)日本野鳥の会 三重県支部

杉浦 邦彦

〒516-0026 伊勢市宇治浦田2丁目9-4

印 刷 館 印刷

〒510-1321 三重郡菟野町田口1903-3

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。●